

中間評価（表紙）

桐生市歴史的風致維持向上計画（平成30年1月23日認定）
中間評価（平成29年度～令和4年度）

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的建造物や歴史的町並みの保全と活用の促進.....	3
II 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備.....	4
III 伝統産業の保護育成.....	5
IV 伝統的な祭礼・行事の継承.....	6
V 歴史まちづくりに対する市民意識の向上.....	7
VI 歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進.....	8
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 観光客の受入態勢と観光入り込み客数.....	9
ii 撮影件数の増加によるイメージアップと歴史的建造物の活用.....	10
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 桐生新町伝建地区及び周辺整備事業.....	11
B 歴史まちづくり推進啓発事業.....	12
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 「織物のまち桐生」に見る歴史的風致.....	13
2 桐生氏・由良氏ゆかりの地に見る歴史的風致.....	14
3 桐生地域の祭礼・行事に見る歴史的風致.....	15
4 黒保根地域の民族芸能に見る歴史的風致.....	16
■ 庁内体制シート(様式6).....	17
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	18
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	19

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	「織物のまち桐生」に見る歴史的風致	I、II、III、IV、VI	
2	桐生氏・由良氏ゆかりの地に見る歴史的風致	V、VI	
3	桐生地域の祭礼・行事に見る歴史的風致	IV、V、VI	
4	黒保根地域の民族芸能に見る歴史的風致	IV、V、VI	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物や歴史的町並みの保全と活用の促進		
II	歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備		
III	伝統産業の保護育成		
IV	伝統的な祭礼・行事の継承		
V	歴史まちづくりに対する市民意識の向上		
VI	歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客の受入態勢の整備と観光入り込み客数		
ii	撮影件数の増加によるイメージアップと歴史的建造物の活用		
iii			
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	本町通り整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	桐生新町伝建地区及び周辺整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保全と活用の促進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市の維持向上すべき歴史的風致を構成する歴史的建造物として、桐生新町伝建地区の街並みや織物産業に関わりのあるノコギリ屋根工場などが市内各所に数多く残されているが、知識や経験、人材の不足からの空き家の増加、歴史的建造物の解体を余儀なくされることも多い。また、支援制度や相談体制など、修理や修景に繋がる仕組み作りについても課題となっているため、歴史的風致形成建造物への指定など、歴史的建造物の保存活用を推進し、歴史的建造物の活用希望者に対する情報発信や相談体制の充実を図るほか、歴史的建造物の保護とともに、歴史的町並みの保全と活用の促進を図っていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統的建造物公開活用事業	旧眞尾邸の公開活用整備を実施中	あり	H28～
2	歴史的風致形成建造物保存整備事業	歴史的風致形成建造物候補物件のうち、14件を指定。	あり	H30～
3	伝統的建造物保存修理事業	重伝建地区内の特定物件の保存修理に対する支援。	あり	H25～
4	伝統的建築物保存技術継承支援事業	継承者を育成する団体等への支援	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区にある「旧眞尾邸」を取得し、同地区の公開活用施設としての活用を図るため、有識者等による「重伝建地区公開活用施設保存活用計画検討委員会」を組織し、保存活用計画の策定したほか、そこで出された意見等を保存修理工事実施設計へ反映させ、令和4年度より整備工事が開始された。令和5年度中の完成、令和6年度中の開館を予定しており、完成後は、同地区の情報発信の拠点としての活用が期待される。



旧眞尾邸宅整備工事の様子 (R4.11)

伝統的建造物保存修理事業では、重伝建地区内の特定物件の保存修理に対し補助金を交付したほか、伝統的建築物保存技術継承支援事業の研修活動などに参加した技術者が保存修理に携わるなど、人材育成や歴史的景観や街並みの保存を図ることが出来た。



歴史的風致形成建造物紹介動画

歴史的風致形成保存修理事業では、計画書記載の歴史的風致形成建造物候補18件のうち14件を歴史的風致形成建造物へ指定し、建造物の価値を高め、所有者への意識付けを行い、適切な維持管理を図ったほか、建造物を紹介する動画を作成し、市の公式YouTubeチャンネルで配信した。

④ 自己評価

「旧眞尾邸」の整備にあたり、地元町会関係者に検討委員会の委員になっていただくなど、地元住民の意見を反映させることが出来た。また、歴史的風致形成建造物の指定にあたっては、所有者側から指定に関する相談を受けるなど、制度が浸透し、住民の意識が向上してきたと感じた。

⑤ 今後の対応

歴史的風致形成建造物の保存修理に係る補助要綱を早めに策定し、所有者の支援や歴史的建造物の保存、活用を図っていく。

また、伝統的建造物保存修理事業において、新たな技術者を確保することが課題となっているため、関係団体等と連携し、対応を検討していく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	Ⅱ 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

桐生新町伝建地区に隣接する地域は、地区内と同様に、木造の歴史的建造物が密集して残されているが、地区の内外での規制の違いにより、歴史的建造物が更新され、町並みが分断される恐れがあることから、歴史的町並みと調和した景観形成が課題となっている。また、古くからの旧道が取り残されているため、電柱などの障害物により、歩道や道幅が狭くなっている場所があり、景観上や歩行者の安全上の課題もある。

そこで、歴史的町並みに暮らす住民の生活環境の保全と観光振興を両立させた地域の活性化に取り組むほか、歴史的資源と調和する一体的な景観形成、桐生市景観計画や桐生市屋外広告物条例との連携により、景観を阻害している屋外広告物などの是正に努めていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	本町通り整備事業	無電柱化工事等を実施中	あり	H25～
2	桐生新町伝建地区及び周辺整備事業	桐生が岡公園周辺整備を実施中	あり	R2～
3	景観障害物調査改善事業	特定路線における指導・相談	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

重伝建地区内を通る本町通りについて、無電柱化や舗装等の美装化整備を、地元町会との調整や、工事の進捗状況を掲載した「電線地中化だより」を令和4年度より発行し、伝建地区内の市有施設である有鄰館や伝建まちなか交流館へ掲示し周知を図るなど、事業が円滑に進むよう取り組んでいる。令和5年度事業が完了する予定で、歩行者の安全性や歴史的景観との調和などが期待される。



本町通りの整備イメージ

また、市内隋一の来訪者数を誇る桐生が岡公園と隣接する重伝建地区の回遊性向上及び地域の活性化を図るため、国の社会資本整備総合交付金を活用し、両者の中間に位置する「通称：藤棚広場」の整備（R5年度完了予定）や山手通りの歩道及び歩道橋の美装化等を行ったほか、歴史的風致形成建造物の情報板を設置した。その他、本町通りに接続する市道の美装化等を令和5年度以降に予定しており、回遊性や地域活性化だけでなく、歴史的景観の向上にも期待が持てる。



山手通り

さらに、違反広告物の状況を把握するため、定期的なパトロールの実施や、設置基準不適合や未申請の広告物の表示者に対し改善要請などの指導を行い、景観保全を図った。

④ 自己評価

本町通りの整備事業について、地元住民への説明を定期的実施していたため、円滑に進めることが出来た。桐生新町伝建地区及び周辺整備事業については、事前にワークショップを開催し、整備計画の中に、地元関係者等の意見を幅広く取り入れることが出来た。また、歴史的風致形成建造物の情報板へQRコードを掲載し、建物の概要をより詳細に確認出来るようになった。

⑤ 今後の対応

桐生新町伝建地区及び周辺整備事業について、市内を運行している低速電動コミュニティバス「MAYU」の運用などを想定した社会実験を検討し、桐生が岡公園と重伝建地区の回遊性の向上に向けて、取り組んでいく。

また、本町通り整備事業について、引き続き地元町会等と連携し、歩行者の安全性確保や歴史的景観の向上に努めていく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	Ⅲ 伝統産業の保護育成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市の伝統産業である桐生織物に対する認識を深め、歴史を伝えるための資料展示などを行っているが、時代やニーズに合わせた展示方法などが課題となっている。また、織物産業については、和装離れによる需要低下や海外製品の流入、機械化による伝統技法の衰退など、大変厳しい状況に置かれている。さらに、職人の高齢化や新規就業者も少ないことから、技術継承や職としての存続が危ぶまれている。

そこで、ノコギリ屋根工場や作業工程の公開や展示を行い、市民への情報発信や周知に努めるほか、小学生向けの体験学習を行い、子供の頃から伝統産業に触れる機会を創出する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統産業啓発事業	企画展示の開催(年3回程度)	あり	H24～
2	伝統産業保護育成事業	桐生織物の新製品開発等への補助	あり	S39～
3	地場産業振興事業	公益社団法人桐生地域地場産業振興センターへの補助	あり	S62～
4	織物体験事業	桐生織に関する座学及び各種体験	あり	H26～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

桐生市の伝統産業である「桐生織」への認識を深めるため、桐生織物会館旧館にて桐生織に関する資料などの常設展示、年3回程度の企画展や令和4年10月と令和5年1月に都内で実施した日本遺産関連イベントや令和5年2月に有鄰館で開催した「日本遺産の日」展において桐生織の展示を行ったほか、市HPへの桐生織物の製造工程の掲載や、「かかあ天下ぐんまの絹物語協議会」と連携して、織物の製造工程や伝統工芸士へのインタビューを含んだ、「多言語対応(日本語・英語版)の絹産業紹介動画」を制作するなど、周知啓発を図っている。桐生織物会館旧館は、歴史的風致形成建造物等の指定を受け、学生や観光客から人気の高い施設であるため、常設展示を行うことで、桐生織の魅力を広く発信することが出来ている。

また、新製品の開発や新たな販路開拓に繋がる取り組み、後継者育成のために開催している「繊維大学」などの取り組みへの補助を行い、織物産業の活性化を図っている。

さらに、市内の小学生などを対象に、桐生織の伝統工芸士が各学校を訪問し、桐生織物の歴史や絹織物の仕組み、特性、技法などについての学習と手織り体験を行い、桐生織に実際に触れながら、学ぶ機会を創出することが出来た。



繊維大学の様子



織物体験事業の様子

④ 自己評価

周知啓発、販路開拓、新製品開発、後継者育成等伝統産業である「桐生織」を後世に伝えるため、幅広く支援することが出来た。特に、後継者の育成については、織物体験事業を通じ、幼い頃から桐生織に触れることで、認識を深めるだけでなく織物産業自体に興味や関心を持ってもらうきっかけとなっている。企画展に関しては、これまで市内で開催されていた伝統工芸士展を、日本絹の里(市外)で開催するなど、新たな手法を取り入れることが出来た。

⑤ 今後の対応

周知啓発、販路開拓、新製品開発、後継者育成等の取り組みは、桐生織を後世に伝えていくため、どれも欠かせない内容であるため、今後もこれらの取り組みに対する支援を継続させつつ、時代やニーズに合わせた新たな取り組みを関係者などと相談しながら検討していく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	IV 伝統的な祭礼・行事の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

桐生市を代表する歴史的風致である桐生祇園祭は、約360年以上桐生新町の住民により支えられてきたが、各町会が保有する巨大な屋台について、組み立てや解体に掛かる費用が高額であり、また、組み立て、解体時に部材が損傷する恐れがあることから、常時組み立てられる状態で保管するなど、負担解消が課題となっている。また、桐生祇園祭以外の伝統的な祭礼や行事についても、人材や資金が不足していることが多く、使用する用具についても老朽化が進み、保存や更新が困難な状況にある。

そこで、関係団体と連携し、担い手の育成や市民等への周知により祭礼、行事を継承していくほか、用具の修理、更新のための支援についても検討する。また、桐生祇園祭の鉾や屋台について、常時組み立てられた状態での保管や一般公開について検討し、保護と市民への周知を図る

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	祇園屋台・鉾伝承活用事業	祇園屋台の修繕を実施	あり	H26～
2	無形民俗文化財伝承支援事業	用具の更新及び修理方法等の情報提供	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

桐生祇園祭で使用する屋台修繕、お囃子演奏者を育成するための練習会及び発表会に対する支援や記録保存のための測量や図面作成を行い桐生祇園祭の保存、継承を図ったほか、屋台や屋台の修理の様子を一般に公開し、周知啓発を図った。

なお、屋台修繕にかかる事業は令和3年度で終了しており、令和4年度中に総括評価を行い、令和5年度以降に繋げていく予定である。

無形民俗文化財伝承支援事業について、用具の更新及び修理方法等に係る情報提供を行っているほか、指定・登録に該当するような文化財については、事前調査や記録保存を行い、保存、継承を図っている。



屋台の一般公開の様子



お囃子練習会の様子

④ 自己評価

屋台修繕や一般公開、お囃子の練習会等の取り組みに対する支援を行ったことにより、桐生祇園祭の継承へ繋がり、桐生祇園祭が桐生市の歴史的風致を構成する要素となっていることから、歴史的風致の向上を図ることが出来た。

その他、無形民俗文化財等に対する情報提供や記録保存等を行う中で、歴史的、文化的価値などを再認識することが出来た。

⑤ 今後の対応

人口減少や少子高齢化等が進む中で、後継者や運営資金が不足していくことは、今後も課題となってくるが、これらの問題を解決するための支援を行い、保存、継承に向けた効果的な取り組みを検討していく。

また、事前調査や総括評価の結果を関係者や地元などと共有しながら、文化財への指定、登録に向けた検討も行っていく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	V 歴史まちづくりに対する市民意識の向上	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史まちづくりを進めていくためには、市民の理解と協力、そのための情報発信が不可欠であるが、地域の歴史や文化に対する情報が周知されておらず、市民の関心、意識が低い。また、それに加えて、歴史的建造物や重伝建地区などの歴史的町並みや史跡等の状況が、その所有者や市民に十分に認識されているとは言えない。

そこで、市民が歴史的風致に対する認識を深め、自分のまちに誇りを持てるよう、地域の歴史等を身近に感じ、再認識できる機会の創出などにより、市民意識の醸成、周知を図る。市民意識の向上にあたっては、地域住民の理解を深める活動などに取り組むNPOや市民団体等との連携により、啓発、周知機会を創出し、学校教育との連携により、子供の頃から歴史や文化に触れる機会を創出し、意識の醸成に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史まちづくり推進啓発事業	歴史まちづくり講演会等を実施	あり	H29～
2	「桐生を好きな子供」を育てる事業	郷土愛を育成するための事業を実施	あり	H13～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

桐生市の歴史や文化に関することをテーマにした市民向けの企画として、歴史まちづくり講演会やバスツアー、案内人の会と連携したまち歩きツアーを開催し、市民が桐生市の歴史や文化に対し理解や認識を深めるきっかけとなった。また、歴史まちづくりに関する動画（4本）及び令和4年度に開催した講演会（2回）の様子を桐生市公式YouTubeチャンネルで配信し、広く情報発信を行った。

学校や幼稚園等の教育機関や市民団体等と連携し、紙芝居を利用した民話の読み聞かせやまゆ玉作り等、桐生に愛着と誇りを持ち、将来にわたって桐生で活躍できる子どもの育成に重点を置いた取り組みを行い、子供の頃から歴史や文化に触れる機会を創出した。



講演会の動画配信（サムネイル）



まち歩きツアーの様子

④ 自己評価

歴史まちづくり講演会やバスツアー等を実施したことにより、市民が桐生市の歴史や文化に興味を持ってもらえるきっかけになっただけでなく、市内に点在する歴史的資産を周知することが出来た。

また、「桐生を好きな子供」を育てる事業では、官民連携で様々な取り組みを行い、郷土愛を育むきっかけ作りを行うことが出来た。

⑤ 今後の対応

歴史まちづくりを進める上で、歴史や文化に対する市民の理解や認識は必須であり、それらをも高めるためのきっかけとして、講演会やバスツアー等は非常に有効であると考えられるため、講演会のテーマなど内容を検討しながら引き続き取り組んでいく。

また、「桐生を好きな子供」を育てる事業について、全庁的に取り組んでいる事業であるため、新たな体験メニュー等を検討していきたい。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
方針	VI 歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市には、200棟以上が現存するノコギリ屋根工場や、重伝建地区等、多くの有形、無形の文化財や歴史的資源があるものの、これらの文化財や資源に加えて歴史資料や文化財の周辺環境までを含めた総合的な基本方針等が定められていない。また、市史が編さんされてから50年以上経過しており、新たな市史編さんが望まれている。さらに、観光案内や物産販売の施設が市内に点在しているが、連携が十分に取れていない。

そこで、将来における本市の発展と文化の向上を見据え、有形、無形の文化財、歴史的資源、歴史資料について、全市的、体系的な収集や調査研修を進め、市内外への情報発信に取り組んでいく。また、市内に点在する観光案内施設等を整理、集約しつつ、施設同士が連携して一体的な情報発信に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物調査活用事業	空き家空き地バンクにおける情報提供等	あり	H31～
2	文化財保存活用地域計画等策定事業	新たな市史編さんに向けた取組等	あり	H26～
3	歴史文化資料公開事業	郷土資料等の公開	あり	H29～
4	文化財等案内標識整備事業	文化財説明版の設置及び修繕	あり	S40～
5	観光案内等情報提供事業	シルクル桐生における観光案内等	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

令和元年度に、公民連携のまちづくりの拠点として開設した「桐生市観光情報センターシルクル桐生」において、観光情報の発信、収集等を行うとともに、多言語での対応が可能な「織都桐生案内人の会」による観光案内、足利市と日本遺産を中心に紹介する動画の作成等を行い、インバウンドも含めた情報発信、観光案内板の整備や、市内の文化財等への案内板の設置や設置済みの案内板の整備等、誘客と受け入れ態勢の向上を図った。

市史編さんについては、令和4年度に「市史編さん室」を設置し、『新編 桐生市史』編さん基本計画」を策定し、令和5年度からの本格的な調査活動に向け準備を進めた。

桐生市の歴史文化に関する資料の収集、調査、保全を進めながら、調査結果や収集した資料の一般公開や調査結果の刊行、桐生市歴史文化資料館の運営費補助を行った。

歴史的建造物の活用を図るため、空き家・空き地バンクと連携した情報提供や、歴史的風致形成建造物への指定に向けた職員による簡易的な現地調査を行った。



JR桐生駅での写真展示



シルクル桐生での観光案内

④ 自己評価

まちなか観光の情報発信の拠点として「シルクル桐生」を開設したことにより、観光情報の収集、発信等の機能が集約し、来訪者に向け効果的な情報発信を行うことが出来た。また、織都桐生案内人の会による案内や、日本遺産を紹介する動画の作成などにより、桐生市の歴史や文化の普及促進を図ることが出来た。

⑤ 今後の対応

新たな市史の編さんにあたっては、刊行へ向けた調査研究を進めるとともに、その成果を市広報や『桐生市史研究』、市民向けの講演会等で発信していく。

また、まちなか観光の拠点として運営するシルクル桐生を中心に、各施設が連携し一体的な情報発信が行えるよう引き続き取り組んでいく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
効果	i 観光客の受入態勢の整備と観光入り込み客数		

① 効果の概要

観光拠点の整備、観光ガイドの研修会の開催、歴史的風致形成建造物への情報板設置等により受け入れ態勢を整備し、首都圏を中心としたシティープロモーション等により誘客を促進した。

② 関連する取り組み・計画

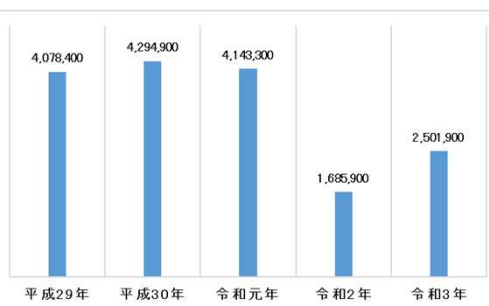
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	桐生市新生総合計画 桐生市第六次総合計画	あり	H20～R1 R2～R9
2	桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R1 R2～R6
3	桐生市観光基本計画 桐生市観光ビジョン	あり	H23～R3 R4～R8

③ 効果発現の経緯と成果

本市を訪れた観光客に対するおもてなしの心を培うことや、将来的な観光ガイドの育成を目的とした講演会（観光大学）を、平成29年度、30年度、令和元年度、令和3年度（オンラインによるライブ配信）に開催し、桐生市の歴史資源などを知ってもらうための取り組みを行った。平成30年度開催時には、隣接する栃木県足利市と共同で、両市の観光ガイドが参加する研修会を開催し、日本遺産という共通の歴史的資源を持つ両市周遊の促進を図った。

観光拠点施設の整備として、群馬銀行桐生支店内に「桐生市観光情報センターシルクル桐生」を令和元年度に開設し、観光案内、情報発信、物産販売等を行っている。さらに、令和元年度と3年度に、歴史的風致形成建造物8件に対し情報板を設置し、重点区域内の受け入れ環境及び説明機能の充実を図った。

これらの取り組みに加え、首都圏を中心としたプロモーションや旅行エージェントやブロガー等を招聘したファミトリップツアーの実施、本市の日本遺産を中心としたPR動画やSNS広告の配信等積極的な誘客促進や受け入れ態勢の整備を行った。本市の観光入り込み客数は、計画認定後から増加しているが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年、3年については観光入り込み客数が減少している。



桐生市観光入り込み客数 (H29～R3)
※年度ではなく、年単位で集計
※観光入込客統計調査報告書
(群馬県HP掲載)より作成



観光大学の様子

④ 自己評価

観光大学の開催により、ガイドの説明力等の向上や、本市の歴史・文化といった観光資源について知るきっかけに繋がった。

また、PR動画やSNS広告の配信を行ったことにより、国内外に向けより効果的に情報を発信することができ、桐生の歴史的な観光資源を知ってもらうことに繋がった。

⑤ 今後の対応

新型コロナウイルス禍で、今後の状況が不透明であるが、引き続き受け入れ態勢の整備を進め、利便性の向上を図るとともに、本市固有の歴史や文化等の魅力を機会を捉えて外部へ発信しながら、観光入り込み客数の増加に繋げる。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
効果	Ⅱ 撮影件数の増加によるイメージアップと歴史的建造物の活用		

① 効果の概要

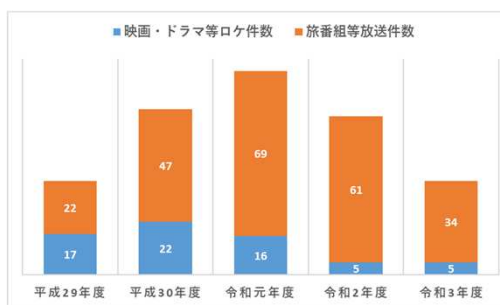
市内を中心にロケ支援活動を行っている「わたらせフィルムコミッション」の支援や、群馬県が事務局となる「ぐんまフィルムコミッション連絡会議」との連携を図りながら本市固有の歴史や文化的資源を発信し、撮影件数の増加や歴史的建造物の活用に繋げた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	桐生市観光基本計画 桐生市観光ビジョン	あり あり	H23～R3 R4～R8
2	桐生市都市計画マスタープラン	あり	H27～R7
3	桐生市景観計画	あり	H28～

③ 効果発現の経緯と成果

本市では、施設の活用と撮影を通じた本市のイメージアップを図るため、民間団体であるわたらせフィルムコミッションの支援や群馬県と連携を行いながら、撮影支援に取り組んでいる。撮影実績は、新型コロナウイルスの影響により令和2年度、3年度は減少しているが、令和元年度は、計画認定時（平成29年度）の約2倍以上となっており、受け入れ態勢の整備や首都圏からの距離、また古い町並みや歴史的建造物が多く現存していることや、利便性への理解が進んだことが考えられ、相乗効果として、歴史的建造物の活用や聖地巡礼等による地域振興、イメージアップへ繋げることが出来た。



撮影の様子

④ 自己評価

ロケにおける歴史的建造物の使用により、建物として新たな活用を図ることが出来た。また、ロケを支援する中で、歴史的建造物群のある地元住民等と関わる機会が生じることで、地域とのつながりを作ることに繋がった。

⑤ 今後の対応

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度から撮影件数が減少しているため、撮影関係者や周辺住民等の安全策を講じながら、撮影件数を増加させ地域振興等を図れるような取り組みを検討していきたい。

また、今後市内の歴史的建造物等の撮影についても、所有者等の意見を聞きながら、法令・規則に沿った撮影協力を行うことで、ロケ地等での有効活用について検討していきたい。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
取り組み	A桐生新町伝建地区及び周辺整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>市内随一の来訪者数を誇る桐生が岡公園と近接する重伝建地区との回遊性を向上させることを目的とした市民ワークショップを令和元年度に3回開催し、両者の中間に位置する桐生が岡公園下の未利用広場（通称：藤棚広場）の活用方法や路地の美装化等の方向性について検討し、整備計画の骨格を作成した。また、歴史的風致と歴史的風致形成建造物（美和神社と桐生西宮神社）に関する情報板を設置した。令和2年度は、「通称：藤棚広場（以下、藤棚広場）」の歴史的価値の調査、ワークショップの結果を踏まえた整備イメージ図の作成、地域住民に対しニュースレターを配布したほか、藤棚広場の整備及び山手通りの歩道美装化に着手した。令和3年度には、山手通りの歩道美装化が完了した。なお、藤棚広場については、現在も整備を継続しており、令和5年度に整備が完了する予定である。また、指定済みの歴史的風致形成建造物6件の敷地内に情報版を設置した。令和4年度は、山手通り歩道橋の美装化整備に着手し、同年度中に事業が完了する予定である。</p>		 <p>藤棚広場整備イメージ</p>  <p>歴史的風致形成建造物情報板</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>ワークショップの開催やニュースレターの配布等、官民連携で整備計画を策定し情報共有を図ったほか、整備対象地域を紹介する動画を作成・配信したことにより、歴史街づくりに対する住民意識の向上に繋がった。また、歴史的風致形成建造物の情報板について、歴史的風致形成建造物の詳細を紹介するページ（市HP）へリンクするQRコードを記載し、見学者等が建造物について理解しやすくなるよう配慮した。今後の課題として、重伝建地区内で行われている本町通り整備事業との整合性、藤棚広場整備後の活用方法、事業終了後に重伝建地区との回遊性を向上させるための施策等が挙げられるため、地元住民や担当部署と連携しながら、これらの課題を解決できるよう検討を進めて参りたい。</p>			
外部有識者名	足利大学名誉教授 増山正明（桐生市歴史まちづくり推進協議会会長）		
外部評価実施日	令和5年3月22日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>歴まち重点区域のコアとなる重伝建地区との回遊性を図るべく、桐生が岡公園南に位置する藤棚広場の有効活用に向けての整備にあたり、市民ワークショップを複数回開催し、歴史的価値や整備・活用の方針が検討されてきたことは大きな意味がある。整備の方針である、貴重な歴史的風致の保全と公共広場としての質的向上が実現されていると評価できる。区域全体の地形や、石垣、石段などの歴史的資源の保全、視点場としての眺望の確保、桜の名所としての価値の存続など、有効な整備が行われたと考える。</p> <p>広場に隣接した遊鳳舎（休憩所）は歴史的価値と共に市民に長く親しまれてきた建造物であり、今後改修に向けては、調査に基づき可能な限り復元の方針を進めることが望まれる。また、まちなかや重伝建地区への回遊ルートになる路地空間の整備によって、ウォーカブルな歩行ネットワークの形成を期待する。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>遊鳳舎の改修工事について、現行の建築基準に適合させ、現状の歴史的景観を損なわないよう担当課と連携して進めている。また、重伝建地区に接続する市道の整備や藤棚広場の活用方法を官民連携で検討し、重伝建地区への回遊性向上や地域の活性化へ繋げていけるよう後期5か年計画の中で検討していく。</p>			

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
取り組み	B歴史まちづくり推進啓発事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>市民の歴史的風致に対する認識を深め、地域の歴史や伝統文化等を身近に感じ再認識してもらう機会とし、講演会、まち歩きツアー、バスツアー等の取り組みを行っている。講演会は、計画認定後からこれまでに7回開催し、桐生の歴史や文化に関することをテーマに、桐生の歴史とそのゆかりの地を会場に設定した。また、平成30年度には、歴史まちづくりシンポジウムを開催し、歴史まちづくりの必要性についての講演やパネルディスカッションを行ったほか、会場である群馬大学同窓記念会館を含めた歴史的風致形成建造物3件の指定式を行った。なお、新型コロナの影響により、令和2年度、3年度は講演会を開催することが出来なかったため、歴史まちづくりに関する動画を制作・配信した。まち歩きツアーは令和元年度に開催し、市内在住者が中心の参加者とともに、歴史的風致に関する施設等を巡った。バスツアーは平成30年度と令和元年度に実施したが、新型コロナの影響により令和2年度は中止、令和3、4年度はまち歩きツアーに変更している。</p> <div data-bbox="1038 309 1353 544" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1023 577 1378 611">歴史まちづくり講演会の様子</p> <div data-bbox="1038 640 1353 875" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1023 909 1378 943">歴史まちづくり動画(サムネイル)</p>			
<p>② 自己評価</p> <p>講演会を開催するにあたり、講演のテーマに由来する場所を会場に設定することで、市内に点在する歴史的風致を知るきっかけとなり、市民意識の向上に繋がった。また、まち歩きツアーやバスツアーの開催にあたり、ガイドの会等民間団体と連携して取り組み、官民協同による文化財等の保存活用を図ることが出来た。さらに、新型コロナ禍で在宅時間の増加による動画の需要が高まる中、歴史まちづくりをテーマにした動画の制作・配信及び講演会の様子を撮影し見逃し配信として市公式Youtubeチャンネルへ掲載するなど、新たな切り口で情報発信を行い、多くの人に桐生市の歴史まちづくりについて知ってもらう機会を作ることが出来た。今後の課題としては、若年層の方に興味を持ってもらうことが挙げられるため、今後検討して参りたい。</p>			
外部有識者名	足利大学名誉教授 増山正明(桐生市歴史まちづくり推進協議会会長)		
外部評価実施日	令和5年3月22日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>民間団体と連携して、歴史まちづくり講演会、まち歩きツアー、ワークショップ、バスツアーを開催し、市民への歴史まちづくり啓発への取り組みは順調にスタートし、桐生の歴史的風致への意識向上に寄与したと考える。しかしその後、新型コロナ感染拡大により、開催を予定されていた各種プログラムが休止を余儀なくされた。その後、市民対象の歴史的風致に関連する散策ツアーを開催の実施と同時に、市の歴史的風致を内容とした「歴史まちづくり動画」の配信を行うなど、試行錯誤の中でコロナ禍においても可能なプログラムを実施していることは評価できる。</p> <p>今後、ウィズコロナでの本事業の具体的なプログラムの再検討・見直しも必要と思われる。また幅広い世代の参加拡大と共に、各種まちづくり団体との連携の強化、さらには設立に向けての支援等が期待される。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>講演会等の取り組みは、市民の歴史的風致の認識を向上させるだけでなく、重点区域以外の歴史的風致へ関心が高まる機会となるため、今後も、取り組みを継続させ、必要に応じ、内容や実施方法の見直し等を行い、若年層を中心に新たな参加者を増やすとともに、歴史まちづくりへの機運醸成へ繋げていく。また、新たなまちづくり団体の設立については、支援方法や行政や既存団体との役割分担といった課題等を精査・分析しながら、後期5か年計画の中で検討していく。</p>			

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	1「織物のまち桐生」に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物や歴史的町並みの保全と活用の促進 II 歴史的建造物や歴史的町並みと調和する周辺環境の整備 III 伝統産業の保護育成 IV 伝統的な祭礼・行事の継承 VI 歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進		

① 歴史的風致の概要

桐生市は、慶長5年(1600年)に徳川家康により町立てが行われた桐生新町を中心とした織物で栄え、それを基盤として、桐生祇園祭や桐生糸びす講といった祭礼行事などの歴史的環境が生み出され、今でも市内の随所に、織物に関連する建造物や産業などの営みが息づき、「織物のまち桐生」として、良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

● 伝統的建造物保存修理事業

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区は、織物の町の中心地として栄えた街並みが残されており、この歴史的景観を維持するため、地区内の特定物件の修繕に対し支援を行い、歴史的建造物や歴史的町並みの保全が図られた。

● 本町通り整備事業

重伝建地区内を通る本町通りについて、無電柱化等の整備を現在行っており、歴史的町並みの更なる保全を図っている。

● 祇園屋台・鉾伝承活用事業

桐生祇園祭で使用する屋台の修繕、用具の更新や屋台の一般公開のほか、お囃子の練習会、発表会を開催し後継者の育成を図り、伝統祭礼の継承へとつなげた。

● 桐生新町伝建地区及び周辺整備事業

桐生祇園祭及び桐生糸びす講の起点となる美和神社及び桐生西宮神社に隣接する山手通り及び山手歩道橋の美装化整備、両神社及び両祭礼を紹介する情報板や歴史的風致形成建造物の情報板を設置し、伝統祭礼の継承や情報発信を図った。

● 織物体験事業

伝統産業である桐生織について、常設展、企画展の実施や販売促進や新製品開発等への支援、市内の小学生を対象に織物体験事業を行い、伝統工芸士による織物に関する座学や織機の操作体験等を通じ、伝統産業に触れる機会を創出した。



特定物件修繕前



特定物件修繕後

③ 自己評価

実際に織物体験や座学を経験した児童へアンケートを実施したところ、桐生織に対する興味や認識を深められた内容の感想をいただくなど、郷土伝統の素晴らしさを実感することが出来た。

④ 今後の対応

- ・ 桐生新町伝建地区及び周辺整備事業では、市内随一の来訪者数を誇る桐生が岡公園と重伝建地区との回遊性を向上させるため、両者の中間に位置する「通称：藤棚広場」の整備を実施しており、引き続き整備を進め、回遊性の向上及び周辺地域の活性化へ繋げる。
- ・ 織物体験事業では、子供たちが更に桐生織に興味を持ってもらえるような新たな体験メニュー等を検討していく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	2桐生氏・由良氏ゆかりの地に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	V歴史まちづくりに対する市民意識の向上 VI歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進		

① 歴史的風致の概要

日本の歴史書に初めて「桐生」という名が登場したのは、12世紀後半に、桐生氏の始祖とされる桐生六郎が入部し、現在の桐生市梅田地区にある市史跡梅原館跡に、居館を構えた時であるとされている。その後、新田金山城の由良成繁によって桐生氏が滅亡し、常陸国牛久に領地替えになるまで、18年間由良氏により統治され、その礎を形成した地域には多くの桐生氏、由良氏ゆかりの歴史的環境が広がっている。

② 維持向上の経緯と成果

●桐生氏、由良氏にまつわる講演会の開催

由良氏の菩提寺である鳳仙寺にて、由良氏に関連するテーマで講演会を開催したほか、評価対象年度より前になるが、桐生氏にまつわる講演会を、桐生氏の菩提寺である西方寺で開催し、桐生氏から由良氏へと、時代の流れに沿って講演し、歴史まちづくりに対する市民意識の向上を図った。

●桐生七福神巡りの開催

桐生氏、由良氏に関連する歴史的風致のうち、七福神が祀られている西方寺、鳳仙寺、青蓮寺等7つのお寺を巡るハイキングコースを紹介した。ハイキングは、通年で開催しており、時間等の制約はなく参加者自身がハイキングコースマップに沿って各お寺を巡る内容となっており、実際に参加した方が個人のSNS等で紹介する等、情報発信に繋がった。

●まち歩きツアーの開催

市内の重伝建地区を中心に観光案内を行う「織都桐生案内人の会」と連携し、桐生氏にまつわる講演会と桐生氏、由良氏ゆかりの菩提寺や中世・戦国時代の旧城下町に残る史跡と重要文化財を巡るまち歩きツアーを開催し、情報発信及び市民意識の向上に繋がった。

●織都桐生案内人の会による動画配信

桐生城を紹介する動画を、織都桐生案内人の会のYouTubeチャンネルで配信し、情報発信を図った。



七福神巡りコースマップ



「織都桐生案内人の会」のガイドの様子

③ 自己評価

市内の歴史的建造物のうち、桐生氏、由良氏にまつわるものの市民の認知度が特に低い状態の中、講演会やまち歩きツアーを通して、知名度向上に繋げることが出来た。

桐生七福神巡りは、観光客からの問い合わせも多く、観光誘客による地域の活性化や重伝建地区などとの回遊性の向上に繋がった。

④ 今後の対応

引き続き、織都桐生案内人の会等と連携し、まち歩きツアーや講演会といった取り組みを継続し、市民の意識向上と情報発信を図っていく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	3桐生地域の祭礼・行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV伝統的な祭礼・行事の継承 V歴史まちづくりに対する市民意識の向上 VI歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進		

① 歴史的風致の概要

桐生市には、伝統的な祭礼や行事が多く継承されている。特に彦部家住宅のある広沢町の賀茂神社、桐生織物発祥の地とされている川内町の白瀧神社、機屋が多く集まる東地区の日限地蔵尊では、それぞれの地域に根付いた祭礼・行事が古くから継承されている。

これらの祭礼・行事は、地元住民や市民によって受け継がれ、歴史ある各社寺を舞台とし、歴史的な風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●文化財案内標識整備事業

日本遺産の構成文化財の一つである白瀧神社周辺の環境整備として、案内板を設置し市内周遊を促進した。

●桐生市を題材にした漫画「職人見習いは桐生の御霊(みたま)と暮らす」の制作

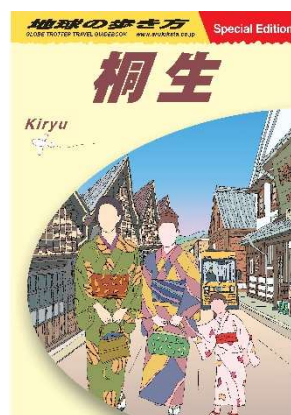
桐生市の歴史的建造物等の観光情報を掲載した漫画を制作。内容は、桐生織物発祥の地とされる白瀧神社に祀られている白瀧姫が、桐生織の見習い職人と、東京の美大へ進学する幼馴染の少女の前に突然現れ、桐生織の伝統技法や白瀧姫伝説などを紹介していくもので、WEB配信を行った後に単行本化し、観光キャンペーン等で配布し、広く情報発信を行った。また、白瀧姫伝説等桐生市の歴史に関する情報を漫画で分かりやすく伝えることで、市民意識の向上に繋がった。

●観光案内等情報提供事業

隣接する栃木県足利市と連携し、両市周遊を促進するために作成したパンフレット「地球の歩き方桐生&足利」へ、「御簀神事」、「白瀧神社太々神楽」、「日限地蔵縁日」を掲載した。作成したパンフレットは、観光PRや首都圏の大型書店18店舗で配布したほか、Amazonの電子書籍サービス「Kindle」にて電子書籍として配信するなど情報発信を行い、伝統的な祭礼・行事の継承に繋がった。



白瀧神社案内板



地球の歩き方桐生&足利

③ 自己評価

観光案内等情報提供事業では、ただパンフレットを作成しただけでなく、情報が多くの方の手に届くよう、時代に沿った配布方法等を取り入れたことで、効果的な情報発信に繋げることが出来た。

また、桐生市を題材にした漫画については、単行本として印刷後、市内のイベントで配布する情報を周知したところ配布時間前に長蛇の列が出来るなど、市民を中心に話題となり、問い合わせも多数受けるなど、住民意識の向上へ繋げることが出来た。

④ 今後の対応

伝統的な祭礼・行事の継承に係る具体的な取り組みを強化し、伝統的な祭礼や行事を支える団体等を支援できるよう、担当部署と連携し対応を検討していきたい。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
歴史的風致	4黒保根地域の民族芸能に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV伝統的な祭礼・行事の継承 V歴史まちづくりに対する市民意識の向上 VI歴史や伝統文化の調査研究と情報発信の推進		

① 歴史的風致の概要

本市の北東部に位置する黒保根地域は、風光明媚な山村地域であり、その中の上田沢、下田沢では、郷土の芸能である「涌丸獅子舞」と「前田原獅子舞」が、それぞれの集落に古くから伝わる。涌丸獅子舞は、江戸時代の安永年間(1772～1780)、前田原獅子舞も江戸時代中期頃にそれぞれ始まったとされている。いずれの獅子舞も、かつては「おくんち」と言い、毎年9月9日、19日、29日を三九日とし、そのうち一日を秋季例祭と定め、五穀豊穡、無病息災を祈り、奉納されていた。一時休止した時期もあったが、現在は住民達によって大切に受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● 伝統芸能に対する支援

涌丸獅子舞保存会及び前田原獅子舞保存会の活動に対し補助金を交付し、伝統芸能の保存、継承を図った。

● 地域おこし協力隊による情報発信

黒保根地域で活動する地域おこし協力隊が前田原獅子舞の行事に参加し、その様子を地域おこし協力隊が運営するブログで配信し、広く情報発信を行った。

● 講演会の開催

「新井領一郎・星野長太郎兄弟と黒保根」をテーマに、明治時代に、海外から不評であった日本の生糸の品質や信用性を高めた黒保根出身の2人の功績やそれに由来する歴史的建造物等を紹介する講演会を、黒保根地域の歴史的環境を構成し、新井家ゆかりの地である西町インターナショナルスクール鹿角キャンプ(新井領一郎キャンプ)で開催し、歴史まちづくりに対する市民意識の向上を図った。

また、評価対象年度以前ではあるが、涌丸獅子舞保存会の方を講師に招き、「涌丸獅子舞と医光寺～実演を交えて」をテーマに講演会を開催し、伝統芸能の保存、継承に繋げた。

● 石造物調査の実施

立正大学と協力し、黒保根地域に分布する石造物についての調査を行い、調査結果をまとめた「桐生市黒保根地区の石造物」を発行し、市民意識の向上及び歴史や伝統文化の調査研究を図った。



涌丸獅子舞「さらさら舞」



前田原獅子舞

③ 自己評価

新型コロナの影響により、歴史的風致を構成する2つの伝統芸能の開催が出来ない状況が続く中、地元との連携を図りながら、保存継承に向けての支援を行うことが出来ているので、今後も継続していけるよう取り組んでいきたい。

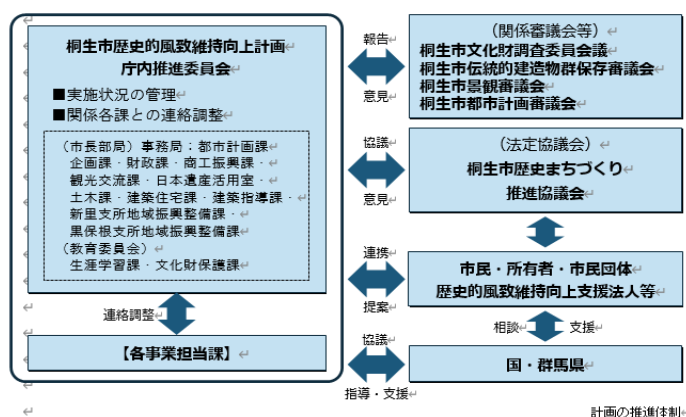
④ 今後の対応

新型コロナの影響により、伝統芸能を披露する機会を作ることが難しい中、伝統芸能を保存・継承していくための新たな取り組みを検討していく。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

歴史的風致維持及び向上を推進するためには、まちづくり部局と文化財保護部局等の関係部局との横の連携を緊密に図る必要があることから、計画策定前より関係各課の課長により組織され設置していた「歴史的風致維持向上計画庁内推進委員会」を引き続き設置している。令和2年度には、機構改革により本市の重点区域に設定されている重伝建地区や歴史的風致維持、向上を図る上で重要な歴史的資産である日本遺産を所管する日本遺産活用室が設置されたことに伴い、室長が新たに庁内推進委員となり、事業担当部局との連絡調整や事業実施状況の管理と評価を行っている。



庁内推進委員会開催の様子

② 庁内の意見・評価

- ・桐生が岡公園（動物園・遊園地）と重伝建地区の回遊性向上は地域活性化に繋がるものと考えているが、「各地区を訪れる客層が違うため難しい」との意見もある。そのような中で、子どもにも人気のあるMAYUを活用することは、回遊性を向上させる有効な仕掛けのひとつになるものと期待している。（財政課）
- ・歴史的風致形成建造物の指定を行っていることから、外観修景に対する補助制度の創設は必要になると思うが、国の補助金を有効活用する中で、本市の財政負担が過度に大きくならないよう配慮願いたい。（財政課）
- ・現在整備中の「旧眞尾邸」や重伝建地区の県道部分が整備された場合に、桐生市の日本遺産の構成文化財の一つである重伝建地区を観光の拠点として、活用及び情報発信できるような施策を推進していく。（観光交流課・日本遺産活用室）
- ・桐生市観光物産協会の「案内人の会」と連携し、市民や観光客への桐生市の歴史や文化を広く伝えていく事業を引き続き展開していく。（観光交流課）
- ・桐生市の観光情報発信の拠点として、開設した桐生市観光情報センター「シルクル桐生」において桐生市観光物産協会と連携し桐生市の観光情報、物産情報を来訪者に効果的に発信できるよう施策を推進していく。（観光交流課）
- ・新型コロナウイルスのため、国内外や海外からの観光客については、鈍化した状態が続いているが、引き続き本市の観光情報の発信を様々な媒体をとおして広く発信できるような施策を推進していく。（観光交流課）
- ・映画やドラマなどの撮影に関し、わたらせフィルムコミッションと連携し、地域振興の面からも引き続き桐生市をアピールできるよう、市有施設活用の協力をするとともに、歴史的建造物の活用については、法令等の順守や管理者の意向に則り適切に活用できるよう指導しながら活用していく。（観光交流課）
- ・様々な情報媒体を活用し、引き続き広く発信できるような施策を推進していく。（観光交流課）
- ・地域の過疎化は急激に進み、伝統芸能の伝承に必要な人材の確保は益々困難な状況にある。課題解決のためは、地域に限定した活動から広域的な活動にすることの是非についても、各保存会と検討する必要がある。また、併せて祭礼や行事を映像記録として保存することや、獅子舞及びお囃子を映像かつ楽譜等により可視化するなど、後継者の育成や活動を継続させるために必要な支援や体制づくり等を早急に行うことが重要であると考え。（黒保根支所地域振興整備課）
- ・文化財の保護や周知にあたり、必要に応じて部局間で円滑に連携を図ることができた。今後も歴史的建造物の活用など文化財の魅力が高まり、まちづくりにつながるよう、関係部局と情報共有を行いながら事業を推進する。（文化財保護課）
- ・「桐生を好きな子供を育てる事業」については、各課において様々な取り組みを実施していただいている。事業は多岐にわたり官民連携の事業等もあるが、庁内における横断的な情報提供・情報交換により、郷土愛を育成するための事業が、各課において更に発展する可能性も期待できる。（生涯学習課）
- ・桐生新町重要伝統的建造物群保存地区にある「旧眞尾邸」については、保存計画に基づき、同地区の公開活用施設として整備するための実施設計を完成させ、令和4年度より整備工事を着工することができた。今後は、関係各課と連携すると共に、「重伝建地区公開施設修理委員会」における有識者からの指導・助言を踏まえ、可能な限り歴史的価値を保存しながら、同地区の魅力伝える拠点施設として令和5年度中の完成を目指していきたい。（日本遺産活用室・建築住宅課）
- ・本計画の推進を目指し、SNSを活用した情報発信の工夫などに取り組み、歴史的風致の保全に向けた庁内外の機運向上に一定の成果があったと考える。今後も、関係部署が歴史的風致維持向上の意義を十分に認識していくことが重要である。（建築住宅課）

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
------	-----	--------	---------

① 住民意見

本市では、令和3年度と令和元年度に「市民の声」アンケートを実施している。

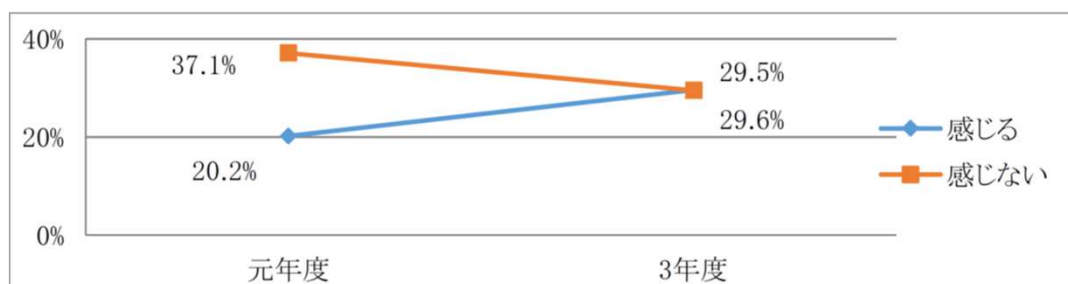
●対象者：市内在住の18歳以上の市民

●対象者数：2,000人（回答者数：996人 回答率：49.8%）

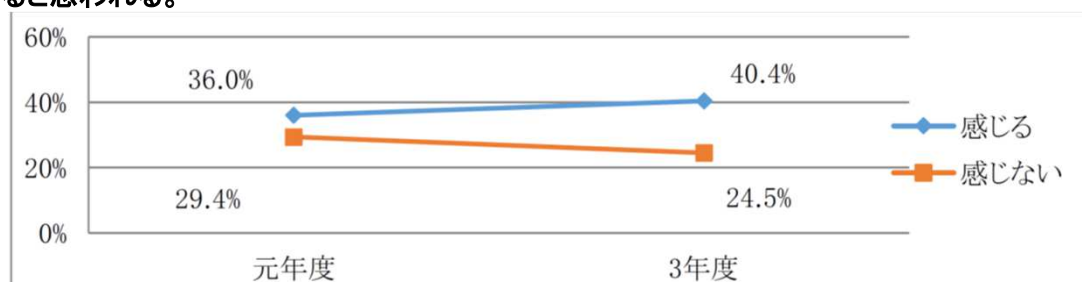
桐生市第六次総合計画の指標の一つである市民実感度に則った基本調査項目のうち、歴史まちづくりに関連する以下の項目について、令和元年度に比べ、結果が好転した。

①地域の特性を踏まえた、良好な景観のあるまちづくりができています。

⇒良好な景観のあるまちづくりが出来ていると感じる人の割合が、令和元年度に比べ9.4ポイント増加しており、感じない人の割合が、7.6ポイント減少していることから、景観計画に沿った景観誘導や違反屋外広告物への是正指導等による効果が出ていると思われる。



②桐生市は、重伝建地区をはじめとする歴史的まち並みを生かしたまちづくりが進んでいる
⇒歴史的まち並みを生かしたまちづくりが進んでいると感じる人の割合が、令和元年度に比べ4.4ポイント増加しており、感じない人の割合が、4.9ポイント減少していることから、重点区域内で取り組んでいる桐生新町伝建地区周辺整備事業等の取り組みが徐々に市民の間に浸透してきていると思われる。



② 協議会におけるコメント

桐生市歴史まちづくり推進協議会（令和5年3月22日開催）

コメントは以下のとおり

- ・計画に基づき、多くの事業に取り組んでいるが、現状、市民にこれらの取り組みがうまく伝わっているように感じないので、同じ計画を推進している他の認定都市の事例を学んでほしい。
- ・計画に位置付けられている事業は、今まで取り組んでいた事業を並べただけという印象があり、本協議会で議論したことが各事業に反映されているのかが疑問である。
- ・各事業の結果だけを示すのではなく、計画の段階で本協議会に示し、それぞれの事業に対して考えてもらえるような流れにしないと、ただ事業に取り組んでいるだけになってしまう。
- ・空き家、空き地対策として、大学生等若者の意見をもっと取り入れてみてはどうか。
- ・黒保根地区の伝統芸能である2つの獅子舞について、今後も継承していけるよう支援を継続してほしい。
- ・各事業の「自己評価」で「成果」は詳しく紹介されているが、同時に「課題」も提示してほしい。事業の遂行には必要と思われる。「今後の対応」では少し物足りない。
- ・18Pについて、歴まちの2つの主対象としての、歴史的町並み、建造物等のハード面のみならず、もう一方の歴史的風致を反映した伝統技術、祭り・催事等のソフト面があるが、風致（ソフト面）に傾注した評価（質問）があると良いと思うので、今後検討してほしい。

市町村名	桐生市	評価対象年度	H29～R4年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 後期5か年計画においても、現計画に記載されている事業や施策を継続して展開していくことが課題である。</p> <p>2. 現在取り組んでいる桐生新町伝建地区周辺整備事業は、市内随一の来訪者数を誇る桐生が岡公園と近接する重伝建地区との回遊性の向上と地域活性化を目的として、両者の中間に位置する通称「藤棚広場」や山手通り等の整備を令和5年度までに完了させる予定だが、各整備の完了後、回遊性を向上させるための具体的にどのような取り組みを行っていくのかが課題となっている。</p> <p>3. 当市では、歴史的風致形成建造物の指定を毎年行っているが、外観修景に対する補助制度がなく、それらに係る費用は全て所有者負担となっていることから、所有者への支援が課題となっている。</p> <p>4. 計画認定当初から、伝建地区の保存整備に関わる知識や技術の取得を目的とした任意団体「桐生伝建修習の会」と連携し、研修会や関係会議への参加等の取り組みや意見交換を行っているが、人口減少や少子高齢化等により、伝統工法に対し興味や関心を示す技術者が不足したことにより、歴史的建造物を保存する人材の育成や人材確保が課題となっている。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1. 中間評価時点で、ほぼ全ての事業が継続中であることから、期間内に事業が完了するよう、後期5か年においても、継続的に取り組んでいく。</p> <p>2. 桐生新町伝建地区周辺整備事業の実施にあたっては、令和元年度に官民連携で開催したワークショップで出た意見を反映させた整備計画に沿って実施していることから、整備計画に記載された内容が本当に効果的なものかを確認するための社会実験や地元住民や関係団体等との連携を通して、具体的な取り組みを検討していく。また、同事業の整備内容や周辺地域の魅力等をSNS等で積極的に発信し、認知度を高め、周遊促進へ繋げられるよう取り組んでいく。</p> <p>3. 外観修景に対する補助制度の創設を早期に実現させるため、補助要綱の策定に向けた検討や関連部署との調整を継続させる。</p> <p>4. 今後も「桐生伝建修習の会」との連携を継続し、歴史的建造物を保存する人材の育成や人材確保等の課題解決に向け取り組んでいく。</p>			